

交付運用報告書

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、日本を除く世界の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、実質外貨建資産について、Aコースでは原則として対円で為替ヘッジを行い、Bコースでは為替ヘッジを行いません。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。
引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBS グローバル株式厳選投資ファンド Aコース(ダイワ投資一任専用)/ Bコース(ダイワ投資一任専用)

追加型投信／海外／株式

第10期（決算日2026年6月15日）
作成対象期間（2025年6月17日～2026年6月15日）

Aコース（ダイワ投資一任専用）

第10期末（2026年6月15日）	
基準価額	20,691円
純資産総額	8,977百万円
騰落率※	18.4%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

Bコース（ダイワ投資一任専用）

第10期末（2026年6月15日）	
基準価額	42,599円
純資産総額	22,880百万円
騰落率※	35.9%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー
＜お問い合わせ先＞ 投信営業部 03-5293-3700
（受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く）

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

＜閲覧方法＞

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック
なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2026。キーンシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

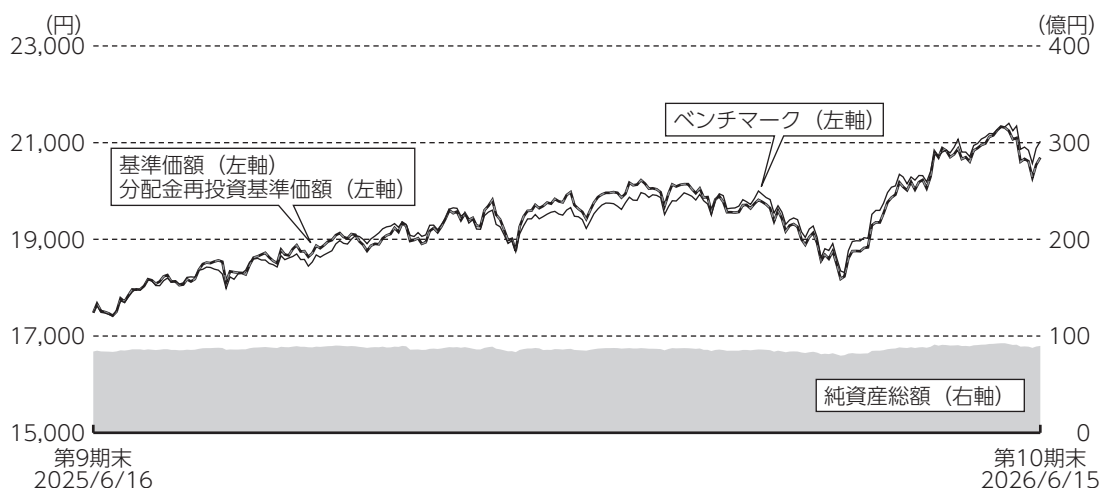
UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

[UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用）] 運用経過

基準価額等の推移について

（2025年6月16日～2026年6月15日）



第10期首：17,482円

第10期末：20,691円（既払分配金 0円）

騰 落 率： 18.4%（分配金再投資ベース）

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

ベンチマークについて

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うに当たり、運用目標の基準あるいはパフォーマンスを評価するための基準です。なお、当ファンドのベンチマークである「MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ヘッジ・円換算ベース）」は、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）を委託会社が独自に円ヘッジベースを算出し、円換算したものです。

※MSCIコクサイ・インデックスは、日本を除く先進国で構成された株式市場の規模（時価総額）等を勘案してMSCI Inc.が開発した指数です。MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、およびその他知的財産権はMSCI Inc.に帰属しております。

基準価額の主な変動要因

組入マザーファンドの基準価額が大幅に上昇したことから、当ファンドの基準価額も前期末比で上昇しました。一方、為替ヘッジのためのコストは基準価額の上昇幅を抑える要因となりました。

1万口当たりの費用明細

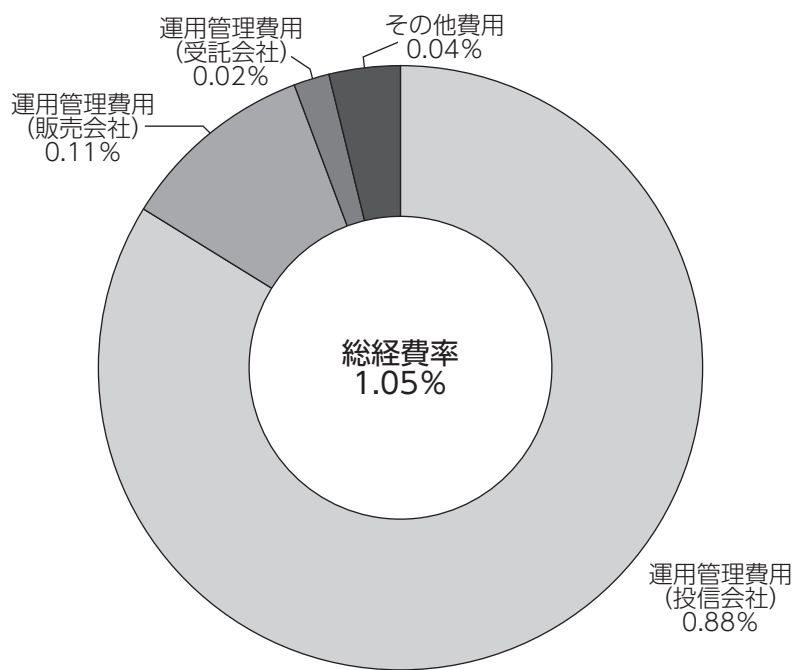
項 目	当期 2025/6/17～2026/6/15		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	196円	1.009%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は19,385円です。
（投信会社）	(170)	(0.878)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(21)	(0.110)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(4)	(0.022)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	2	0.013	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(2)	(0.013)	株式などを取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	4	0.023	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（株式）	(4)	(0.023)	有価証券売買の都度発生する取引に関する税金
その他費用	8	0.041	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(4)	(0.023)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	(2)	(0.013)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(0)	(0.004)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.002)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	210	1.086	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）総経費率



（注1）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

（注2）各比率は、年率換算した値です。

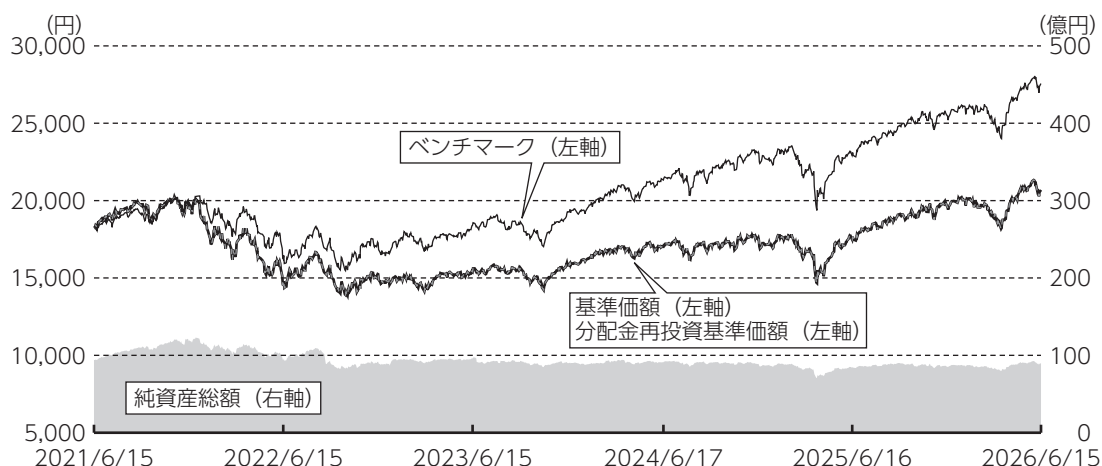
（注3）上記の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注4）上記の費用には、マザーファンドが支払った費用を含みます。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.05%です。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2021年6月15日～2026年6月15日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2021年6月15日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注4) 海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

	2021年6月15日 期初	2022年6月15日 決算日	2023年6月15日 決算日	2024年6月17日 決算日	2025年6月16日 決算日	2026年6月15日 決算日
基準価額 (円)	18,351	14,511	15,415	17,015	17,482	20,691
期間分配金合計（税込み） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 20.9	6.2	10.4	2.7	18.4
ベンチマーク騰落率 (%)	—	△ 11.5	13.4	15.9	7.4	20.3
純資産総額 (百万円)	9,397	9,372	9,585	9,101	8,391	8,977

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」、「ベンチマーク騰落率」および「期間分配金合計（税込み）」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計（税込み）です。

投資環境について

当期、グローバル株式市場は上昇しました。期中は、主要国の金融政策の先行きに対する緩和期待のほか、概ね堅調な景気動向や企業業績などに支えられて、株価は上昇基調で推移しました。加えて、人工知能（AI）関連の成長期待なども株価の下支えとなりました。期の終盤には、中東情勢の緊張激化を受けて世界的にリスク回避の動きが強まり、一時的に株価が大きく下落する局面もありましたが、その後は米国とイランの停戦合意などを受けて反発しました。為替市場では、日米の金融政策や金利動向を巡る思惑から変動したものの、期を通じてみると米ドル高・円安が進行しました。

ポートフォリオについて

当ファンドのポートフォリオについて

当ファンドは、期を通じてUBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド受益証券を高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。また、運用の基本方針にしたがい、対円での為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図りました。

マザーファンドのポートフォリオについて

当ファンドは、日本を除く世界の株式を主要対象とし、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。また、為替ヘッジは行っておりません。

●期中の主な動き

(1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄

情報技術では、ハイパースケーラーによる巨額投資を追い風に、成長を続ける米AI向け半導体最大手／エヌビディアのポジションを積み増したほか、膨大な顧客基盤とブランド力を強みに、収益性の高いサービス事業の好調に加えて、高価格帯ユーザーの囲い込みでiPhoneも予想以上の成長を見せる米情報家電大手／アップル、スマホ用チップで長年培ってきた「低消費電力・高性能」の技術をサーバー向けに応用し、AI推論市場とデータセンター事業へと急ピッチで軸足を移しつつある米半導体メーカー／クアルコムの新規購入などにより、セクターウェイトを引き上げました。また、コミュニケーション・サービスでは、AIの活用による広告精度の向上に加えて、独自開発した生成AI「ジェミニ」とAI半導体「TPU」を評価する米ネット検索大手／アルファベットの新規組み入れなどにより、同じくセクターウェイトを引き上げています。

(2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄

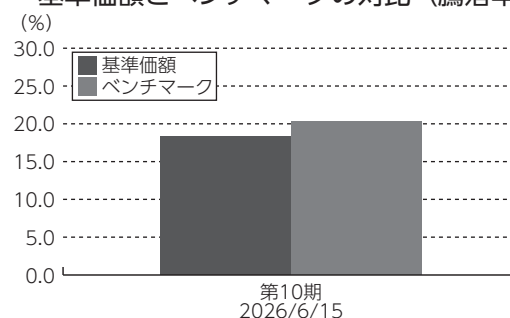
その一方、金融では、株価上昇で相対的な投資魅力度の低下した銘柄の利益確定売りを進めました。英ロンドンに本拠を置く大手金融グループ／HSBCホールディングス、蘭総合保険会社／ASRネダーランド、オーストリア・ウィーンに本拠を置く貯蓄銀行／エアステ・グループ・バンクなどです。また資本財・サービスでは、欧州の防衛費増額の恩恵を受ける銘柄として、期中に急騰した米防衛関連大手／ノースロップ・グラマンを利益確定の全売却としたほか、より投資魅力度の高い銘柄の購入原資とするべく、カナダの鉄道会社／カナディアン・パシフィック・カンザスシティや、米産業機械メーカー／リーガル・レックスノードを売却したことなどにより、同じくセクターウェイトを引き下げています。

※業種はMSCI分類に準拠しています。

ベンチマークとの差異について

当期の騰落率は、基準価額の+18.4%に対してベンチマークが+20.3%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を1.9%下回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を下回った主な要因は、信託報酬などの費用負担に加え、組入マザーファンドの業種別で情報技術のアンダーウェイト、ヘルスケアのオーバーウェイト、資本財・サービスやコミュニケーション・サービスにおける銘柄選択などがマイナスに寄与したためです。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金再投資ベース

分配金について

当期は、市況動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項 目	第10期
	2025年6月17日～2026年6月15日
当期分配金	－円
(対基準価額比率)	(－ %)
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	10,690円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドの今後の運用方針

引き続きマザーファンドを高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいります。

マザーファンドの今後の運用方針

引き続き世界の株式に投資を行い、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指してまいります。

お知らせ

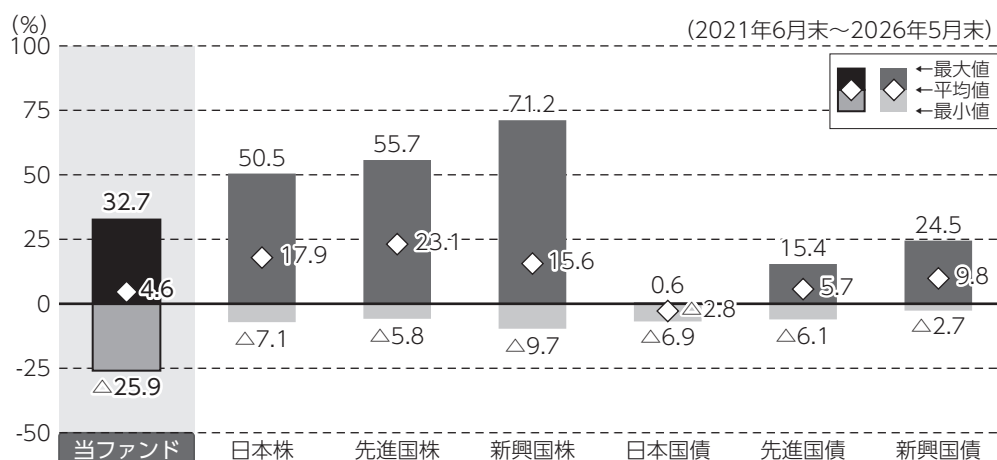
約款変更のお知らせ

2026年4月1日付で一般社団法人投資信託協会と一般社団法人日本投資顧問業協会が合併し、「一般社団法人資産運用業協会」に名称変更が行われたため、投資信託約款に所要の変更を行いました。（約款変更実施日：2026年4月1日）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	無期限（2016年9月26日設定）	
運用方針	この投資信託は、UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、日本を除く世界の株式に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。実質外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジすることにより為替変動リスクの低減を図ります。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	主として日本を除くグローバル株式を投資対象とします。
運用方法	当ファンド	ベンチマークは、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ヘッジ・円換算ベース）とします。 マザーファンドの組入れについては高位を維持することを基本とします。
	マザーファンド	株式への投資にあたっては、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用を行い、特定のスタイルバイアスを持ちません。 UBSアセット・マネジメント（UK）リミテッドに、運用の指図に関する権限を委託します。
分配方針	毎決算時（毎年6月15日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- * 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- * 2021年6月から2026年5月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- * 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- * 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（TOPIX） （配当込み）	東証株価指数（TOPIX）に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス （配当込み、円換算ベース）	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス （配当込み、円換算ベース）	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国国債	FTSE世界国債インデックス （除く日本、円換算ベース）	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド （円換算ベース）	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

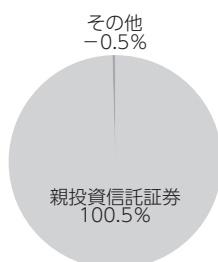
(2026年6月15日現在)

組入上位ファンド（銘柄数：1銘柄）

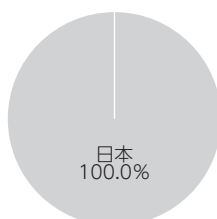
銘 柄	比率（％）
UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド	100.5

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

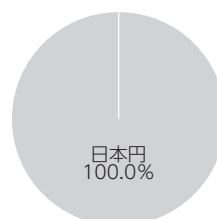
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」でご覧いただけます。

純資産等

項 目	第10期末 2026年6月15日
純資産総額	8,977,219,195円
受益権総口数	4,338,811,682口
1万口当たり基準価額	20,691円

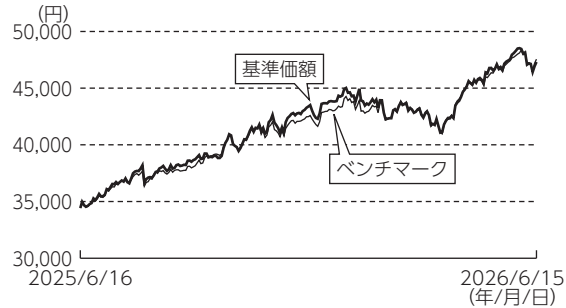
(注) 当期（第10期）中における追加設定元本額は645,397,460円、同解約元本額は1,107,042,774円です。

組入上位ファンドの概要

（2026年6月15日現在）

◆UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド

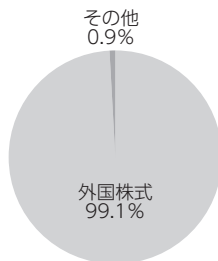
基準価額の推移（2025年6月16日～2026年6月15日）



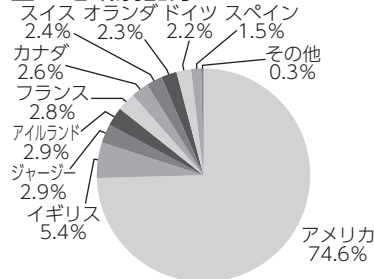
組入上位10銘柄（銘柄数：67銘柄）

銘柄名	業 種	国／地域	比率(%)
NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	アメリカ	6.1
ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	アメリカ	5.4
MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	アメリカ	4.1
AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス流通・小売り	アメリカ	4.1
BROADCOM INC	半導体・半導体製造装置	アメリカ	3.0
APPLE INC	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	アメリカ	3.0
MICRON TECHNOLOGY INC	半導体・半導体製造装置	アメリカ	3.0
ADVANCED MICRO DEVICES	半導体・半導体製造装置	アメリカ	2.6
META PLATFORMS INC-CLASS A	メディア・娯楽	アメリカ	2.4
ELI LILLY & CO	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカ	2.2

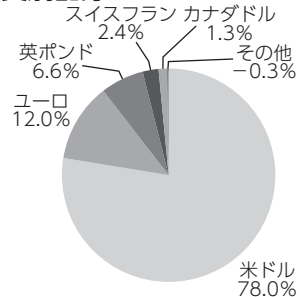
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



- (注1) 「基準価額の推移」はマザーファンドの直近の計算期間、「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はマザーファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注2) 「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。
- (注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。
- (注4) ベンチマークは、期首の値をマザーファンドの基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注5) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

1万口当たりの費用明細

項 目	当期 2025/6/17～2026/6/15	
	金額	比率
売買委託手数料 (株式)	5円 (5)	0.013% (0.013)
有価証券取引税 (株式)	10 (10)	0.023 (0.023)
その他費用 (保管費用) (その他)	10 (10) (0)	0.023 (0.023) (0.000)
合計	25	0.059

※期中の平均基準価額は41,756円です。

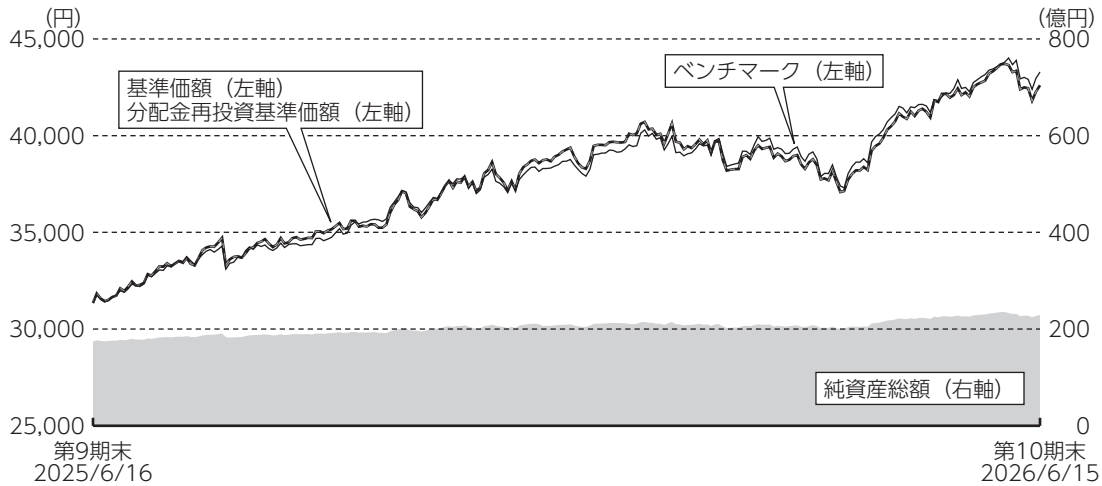
- (注1) 「1万口当たりの費用明細」は、マザーファンドの直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。
- (注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

※当マザーファンドの運用経過につきましては、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

[UBSグローバル株式厳選投資ファンドBコース（ダイワ投資一任専用）] 運用経過

基準価額等の推移について

（2025年6月16日～2026年6月15日）



第10期首：31,344円

第10期末：42,599円（既払分配金 0円）

騰 落 率： 35.9%（分配金再投資ベース）

- （注1）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注2）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注3）分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

ベンチマークについて

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うに当たり、運用目標の基準あるいはパフォーマンスを評価するための基準です。なお、当ファンドのベンチマークである「MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）」は、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み）を委託会社が独自に円換算したものです。

※MSCIコクサイ・インデックスは、日本を除く先進国で構成された株式市場の規模（時価総額）等を勘案してMSCI Inc.が開発した指数です。MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、およびその他知的財産権はMSCI Inc.に帰属しております。

基準価額の主な変動要因

組入マザーファンドの基準価額が大幅に上昇したことに加え、米ドルをはじめ多くの主要通貨が対円で上昇（円安が進行）したことから、当ファンドの基準価額は前期末比で上昇しました。

1万口当たりの費用明細

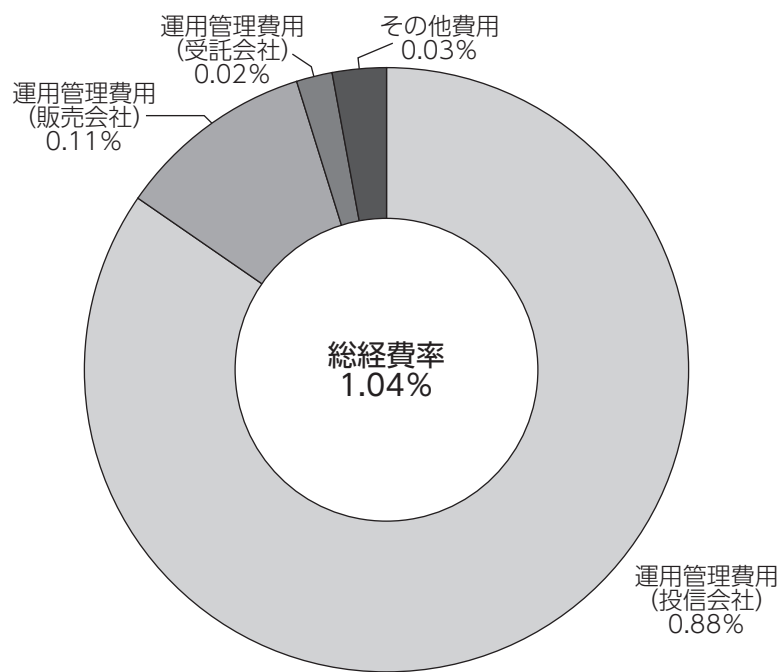
項 目	当期 2025/6/17～2026/6/15		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	381円	1.009%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は37,794円です。
（投信会社）	(332)	(0.878)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(41)	(0.110)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(8)	(0.022)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	5	0.013	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(5)	(0.013)	株式などを取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	9	0.023	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（株式）	(9)	(0.023)	有価証券売買の都度発生する取引に関する税金
その他費用	12	0.032	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(9)	(0.023)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	(2)	(0.005)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(2)	(0.004)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.000)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	407	1.077	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報） 総経費率



(注1) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注2) 各比率は、年率換算した値です。

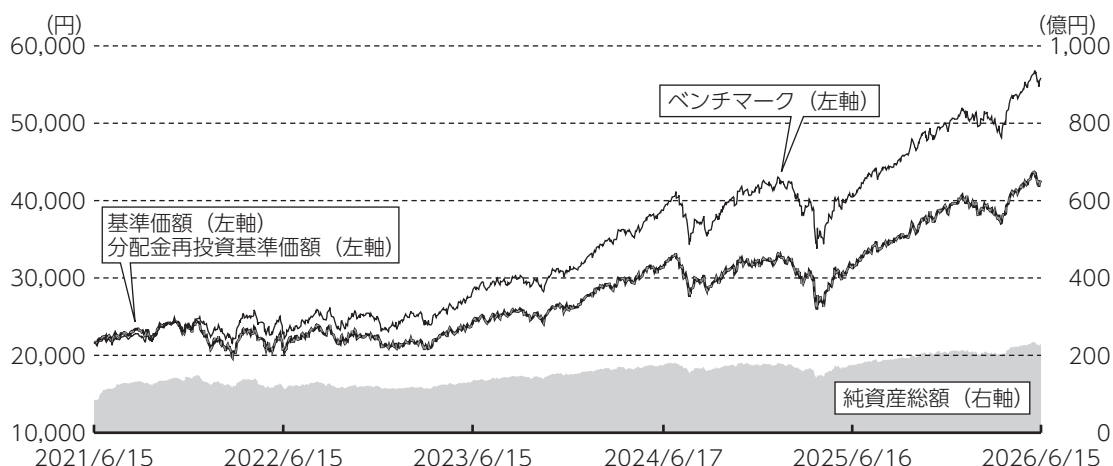
(注3) 上記の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注4) 上記の費用には、マザーファンドが支払った費用を含みます。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.04%です。

最近5年間の基準価額等の推移について

（2021年6月15日～2026年6月15日）



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2021年6月15日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注4) 海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

	2021年6月15日 期初	2022年6月15日 決算日	2023年6月15日 決算日	2024年6月17日 決算日	2025年6月16日 決算日	2026年6月15日 決算日
基準価額 (円)	21,681	20,817	24,128	31,389	31,344	42,599
期間分配金合計（税込み） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率（%）	—	△ 4.0	15.9	30.1	△ 0.1	35.9
ベンチマーク騰落率（%）	—	5.2	23.7	37.2	4.5	38.1
純資産総額 (百万円)	8,496	11,719	13,328	17,419	17,392	22,880

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」、「ベンチマーク騰落率」および「期間分配金合計（税込み）」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計（税込み）です。

投資環境について

当期、グローバル株式市場は上昇しました。期中は、主要国の金融政策の先行きに対する緩和期待のほか、概ね堅調な景気動向や企業業績などに支えられて、株価は上昇基調で推移しました。加えて、人工知能（AI）関連の成長期待なども株価の下支えとなりました。期の終盤には、中東情勢の緊張激化を受けて世界的にリスク回避の動きが強まり、一時的に株価が大きく下落する局面もありましたが、その後は米国とイランの停戦合意などを受けて反発しました。為替市場では、日米の金融政策や金利動向を巡る思惑から変動したものの、期を通じてみると米ドル高・円安が進行しました。

ポートフォリオについて

当ファンドのポートフォリオについて

当ファンドは、期を通じてUBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド受益証券を高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。また、運用の基本方針にしたがい、為替ヘッジは行っておりません。

マザーファンドのポートフォリオについて

当ファンドは、日本を除く世界の株式を主要対象とし、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。また、為替ヘッジは行っておりません。

●期中の主な動き

(1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄

情報技術では、ハイパースケーラーによる巨額投資を追い風に、成長を続ける米AI向け半導体最大手／エヌビディアのポジションを積み増したほか、膨大な顧客基盤とブランド力を強みに、収益性の高いサービス事業の好調に加えて、高価格帯ユーザーの囲い込みでiPhoneも予想以上の成長を見せる米情報家電大手／アップル、スマホ用チップで長年培ってきた「低消費電力・高性能」の技術をサーバー向けに応用し、AI推論市場とデータセンター事業へと急ピッチで軸足を移しつつある米半導体メーカー／クアルコムの新規購入などにより、セクターウェイトを引き上げました。また、コミュニケーション・サービスでは、AIの活用による広告精度の向上に加えて、独自開発した生成AI「ジェミニ」とAI半導体「TPU」を評価する米ネット検索大手／アルファベットの新規組み入れなどにより、同じくセクターウェイトを引き上げています。

(2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄

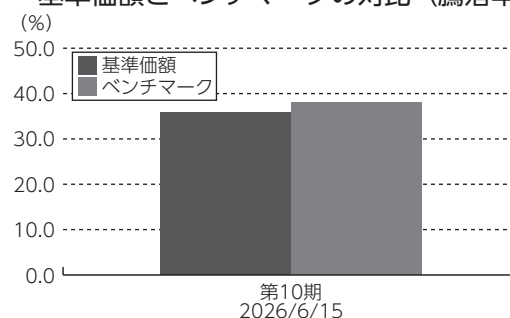
その一方、金融では、株価上昇で相対的な投資魅力度の低下した銘柄の利益確定売りを進めました。英ロンドンに本拠を置く大手金融グループ／HSBCホールディングス、蘭総合保険会社／ASRネダーランド、オーストリア・ウィーンに本拠を置く貯蓄銀行／エアステ・グループ・バンクなどです。また資本財・サービスでは、欧州の防衛費増額の恩恵を受ける銘柄として、期中に急騰した米防衛関連大手／ノースロップ・グラマンを利益確定の全売却としたほか、より投資魅力度の高い銘柄の購入原資とするべく、カナダの鉄道会社／カナディアン・パシフィック・カンザスシティや、米産業機械メーカー／リーガル・レックスノードを売却したことなどにより、同じくセクターウェイトを引き下げています。

※業種はMSCI分類に準拠しています。

ベンチマークとの差異について

当期の騰落率は、基準価額の+35.9%に対してベンチマークが+38.1%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を2.2%下回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を下回った主な要因は、信託報酬などの費用負担に加え、組入マザーファンドの業種別で情報技術のアンダーウェイト、ヘルスケアのオーバーウェイト、資本財・サービスやコミュニケーション・サービスにおける銘柄選択などがマイナスに寄与したためです。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金再投資ベース

分配金について

当期は、市況動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項 目	第10期
	2025年6月17日～2026年6月15日
当期分配金	－円
(対基準価額比率)	(－ ％)
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	32,599円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドの今後の運用方針

引き続きマザーファンドを高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいります。

マザーファンドの今後の運用方針

引き続き世界の株式に投資を行い、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指してまいります。

お知らせ

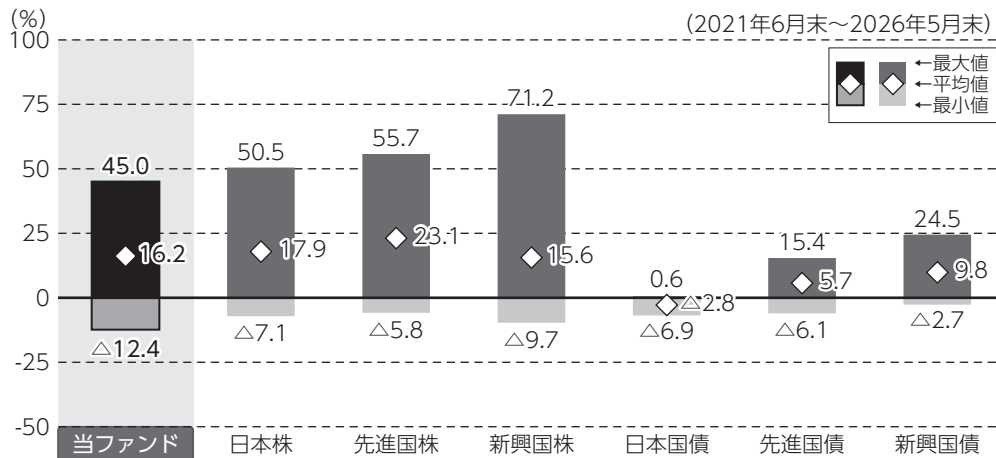
約款変更のお知らせ

2026年4月1日付で一般社団法人投資信託協会と一般社団法人日本投資顧問業協会が合併し、「一般社団法人資産運用業協会」に名称変更が行われたため、投資信託約款に所要の変更を行いました。（約款変更実施日：2026年4月1日）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	無期限（2016年9月26日設定）	
運用方針	この投資信託は、UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、日本を除く世界の株式に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	主として日本を除くグローバル株式を投資対象とします。
運用方法	当ファンド	ベンチマークは、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）とします。 マザーファンドの組入れについては高位を維持することを基本とします。
	マザーファンド	株式への投資にあたっては、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用を行い、特定のスタイルバイアスを持ちません。 UBSアセット・マネジメント（UK）リミテッドに、運用の指図に関する権限を委託します。
分配方針	毎決算時（毎年6月15日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- * 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- * 2021年6月から2026年5月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- * 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- * 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（TOPIX） （配当込み）	東証株価指数（TOPIX）に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス （配当込み、円換算ベース）	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス （配当込み、円換算ベース）	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国国債	FTSE世界国債インデックス （除く日本、円換算ベース）	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド （円換算ベース）	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

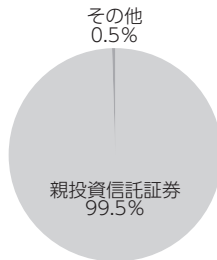
（2026年6月15日現在）

組入上位ファンド（銘柄数：1銘柄）

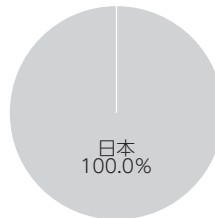
銘 柄	比率（％）
UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド	99.5

（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

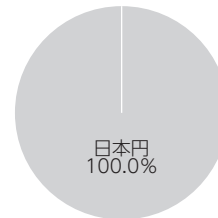
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



（注1）「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

（注2）組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」でご覧いただけます。

純資産等

項 目	第10期末 2026年6月15日
純資産総額	22,880,340,912円
受益権総口数	5,371,064,248口
1万口当たり基準価額	42,599円

（注）当期（第10期）中における追加設定元本額は884,049,989円、同解約元本額は1,061,728,485円です。

組入上位ファンドの概要

- ◆UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド
10ページをご参照ください。